

素より斯の如き濫翰なる材料を取捨しつゝ、長日月を費して編纂された地圖帖に一の誤記謬所のないことを求めることは實に不可能に屬するものである。

恐らく人間の持つ精緻と巧妙さを極度に發揮し、想像外の巨費を投じ、技術上にも前人未到の表現を完成して、自他共に底知れぬ力を認めて、一國文化のスケールの重實を完ふしつゝ、ある現行歐洲の五指に餘る地圖帖類も、四五十年を遡つた搖籃期に於ては、微々として生育を危まれる程度のものである。然るに此萬人の許す羨望に堪えない今日の發育に達した諸地圖帖すら猶多くの謬記が容易にし指摘し得らるゝは地圖編纂事業の如何に困難なるかを雄辯に物語るものであらねばならぬ。

この意味に於て今や吾國も小川博士の異常なる努力によつて始めて日本地圖帖の生誕を見たのであるが、今後完璧に至る迄には、著者の研鑽に待つのみでなく所謂相互扶助の親切さを以て育まれるなれば邦家文化のためにもより良き地圖が編纂されることになるのであるから、今後共に協力指致を希ふ次第である。

## 新刊紹介

### ○日本地圖帖 小川 琢 治 著

價三十六圓 大阪南區大寶寺町成象堂發行  
地圖は文化の尺度である。我が國によき地圖帖のないことは

大なる文化の欠陥であつた。然し之を編著して世に公にすることは誰にでも爲し得る事業ではなく、地學界の者宿の手を待たなければならぬ大事業である。此の點に關しては小川博士は我日本第一人者であらねばならぬ。大正八年から着手された地圖帖の出版は中途震災の爲めに既刊の數千部を烏有に歸した故障があつたにも係らず遂に堂々たる體容を具備して公にされたことは日本文化史の上に一異彩を放つと謂ふべきである。其大さは縦三十一糎半、横二十三糎で、マチラー又はアンドレーの如く大ならず、之を机上に縋くに甚だ便利である。一圖版の大きさは上記の大きさの二倍にして往々之以上に達するものもある。總て六十一版、百万分一及五十万分一の縮尺を以て本體をなし、大都市附近は特に二十五万分一、七万五千分一、五万分一等の諸種の縮尺を用ひて細部を現すに適するものとなした。地圖の特色は彩色層圖であつて一見地勢を明にすることが出来る。五十万分一以上の大縮尺の圖葉に在つては市界、國界、縣界は赤線を以て劃されてあるが故に地勢圖なるにも係らず一般人の讀圖に甚だ適して居る。地圖の外觀の良否は印刷の巧拙にかゝることが甚だ大なるものであるが、本地圖帖の各葉を窺ふに快感を覺えしむる程の美しさである。第十七版及第十八版の關東地方五十万分一の如きは其精巧さに於て日本で印刷された地圖中初めて觀るの出来映である。本紹介者は一本の惠贈を獲た其の夜醜讀反覆して夜半の嚴寒も覺えなかつた程である。地圖の精巧な上に本地圖帖には彙に「地球誌上で紹介された様に村名索引があり、且つ別に地名彙があつて之を併用すれば大字等

圖上に檢出することが容易である。本帖は獨り地學愛好者の伴侶であるばかりでなく實世界に活躍しつゝある人士の座右に備へ付くべきものである。文化の恩澤といふ言葉は本地圖帖の様なものを使用する者が自ら用ふる語辭である。(眞圓生)

○自然地理學概論 石原初太郎著

發行所 東京日本橋區本銀町三丁目 東京寶文館  
 菊版五五〇頁 定價五圓五拾錢

本書は著者が多年専門學校に於ける教授の經驗と苦心蒐集したる資料とに據り實例を専ら本邦に採り觀察實驗及び其應用に重きを置き、地理學を單に器械的の記憶に流れしめず、他の科學と同じく、數理又は推理に依り、實驗、測算等の演習を爲さしめ、斯學研究者をして確實にして適切なる智能を啓發せしめ、最新地理學の世界的の大勢に順應して、眞正なる地理的智識を獲得増進せしめんと企圖したる苦心と努力との結晶で、星辰の記載にも暗夜の實地觀測に適切ならしめん爲めに深く意を用ひ觀測、測量等凡て斯學研究に必要な器械は全部又は一部の圖を附して、詳細に其構造并に使用法を説明し、處々に演習問題を挿入して、讀者の智識をして確實適切ならしめんことに留意したるが如き、著者の用意の如何に周到にして懇切なるかを推知するに足る、只圖版の往々不鮮明なのがあるのと、地形や星辰に關する記載は頗る詳細に亘り、測量の器械方法等は丁寧に説述せられたるに係らず、岩石、地史、火山、湖、海洋等に關する記事は甚だ簡畧で、顯微鏡や地磁氣や、氣候、動植物分布等に關する記事の全然省かれて居るのは、斯學研究者の智識を

して偏倚ならしむる嫌がありはせずや、著者或は觀察、實驗、演習に重きを置た爲に、之を省畧せられたものかと思はるるが併し岩石や礦物の顯微鏡的觀察が地理學の科學的研究上亦重要なことは、今更喋々を要せざる所で、海洋や動植物分布に關する智識も天然地理學に須要なもので無いと云はれまい、著者は是等の事項を他の地理學書に譲りて故意に省かれたものか或は本書を増補するか若くは更に後編を發行して前記の諸項を悉く網羅し完璧たらしむる本意であるかも知れない。兎に角從來刊行の自然地理學書に比し、一異彩を放ち特色を發揮せる力作であつて、觀測や實驗演習を爲しつゝ、科學的に天然地理學を研究せんとする篤學者には座右に缺くべからざる良參考書である。(石川)

○東京地質調査第一回報告

大正十三年十月復興局建築部

復興局は大正十二年に山手臺地の調査に着手すると同時に、下町に三十五箇所を試錐して略地下百尺までの地質を明にした從來東京の地質調査は明治二十一年鈴木氏の調査が嚆矢で、ついで明治三十三年井上氏が芝浦の調査をした位で、今尙地質明かならずと云ふべきであつたが、大震災後の復興計劃の基礎としてかゝる根本的の調査が始まつたことを當然ながら喜ばねばならぬ。其調査の結果として二万分一の地表及地下地質圖が出来た、これによつて東京の基盤をなす處の第三紀層がいかなる分布を有せるか、其上を被へる洪積層がいかなる分布であるか、一瞥して明かとなつた。但し海水面下二十米までの、さの上

に於ける状態である愉快な事には由の手臺地の溪谷より進出し  
て深く浸蝕せられた三條の狭長なる溪谷が発見された、一は不  
忍池から本郷臺の東麓に滑ひて南下するもの、一は江戸川下流  
から駿河臺麴町臺の間を通つて日比谷、芝に通ずるもの、一は  
芝松本町から第六臺場の方へ行くもの、三つで、これが往時の  
河床であるとする、第三紀以後恐らく洪積世のある期間内に、  
東京の地盤が現在よりも二十米以上隆起したことがあり、やが  
て沖積世に沈降したと見らるゝのであつて、この沖積層の特に  
深い部分の上に居住するものは建築上幾分の注意を加へればな  
らぬのであらう。予ほか、有益な基本的の報告が愈多く提供  
せられんことを望み井上禮之助氏清野信雄氏等當事者諸君の勞  
を多とする。(藤田)

### ○半歳で世界一周

京都 外出版株式會社發行 定價貳圓  
武用 種吉著

本書は大正十二年七月下旬著者が横濱埠頭を離れてより、先  
づ米國の西海岸に渡り、ワシントン大學、シカゴ、ナイアガラ  
瀑布、ニッヨーク、ワシントンやボストンの各地を巡りて英國  
に渡航し、僅に半歳の短き日子を以て、自耳聾、和蘭、獨逸、  
佛蘭西、瑞西、モナコ、伊太利、境太利、匈牙利、エジプトの  
諸國を歴遊した間の犀利なる見聞や感想を口語體で平易に且つ  
面白く書き列れた三百三十頁の小冊子であつて、歐米諸國の世  
界大戰後の實況を手に取る如く窺知する事が出来るのみならず  
各國の人情、風俗、習慣や、旅行者が經驗すべき普通の事項で  
其場に臨まれば一寸氣の附かぬ様な事までも、忠實親切に書き

込であるから、一面からは氣の利いた案内記とも見らるゝ、數  
多の挿圖は全部寫真銅版で紙が善いので鮮明である、匈牙利の  
記事中の人種系統や、ギリシアに於ける考古談に著者遊詣の一  
端を何ふ事が出来るのみならず、卷末の講演で著者の世界婦人  
觀を知る事が出来る、又處々に挿入せられた著者の詠歌は即興  
的に實況を描寫したもので、膝栗毛的の失敗談と共に、野趣津  
々たるものがある、兎に角少しも倦怠を感ずることなく通讀し  
了る面白い小冊子で、携帯にも便であり、旅行者、遊覽客等の  
好伴侶である。(石川)

## 質疑應答

文檢の問題中二三をお答します。

問 比律賓の住民

答 比律賓島の現住人口は約八百萬で之を其の渡來年代順に述  
べる、最も早く此島を占據したのはネグリート (Negritos) 人  
種であつた様である。後馬來人種の種類たるイゴラト (Igorot)  
(C) 族が海を踰えて來り、ネグリートを山中に驅逐して自ら海  
岸の平野を占領したが其の後更に優良なタガローグ (Tagalog)  
(C) 其の他の馬來人種が侵來しイゴラト族をしてネグリート人の  
跡を追ひて山中に退かしめ海岸の平野に據つて全島の主となつ  
た。其の後回教が馬來半島より瓜哇一帶の地に宏布するや回教  
徒たる馬來人即ち今のモーロー (Moro) 族は南方より來つて、